

令和元年 救急統計

とがち広域消防事務組合

凡 例

- 1 本書は、令和元年中に発生した救急事故全般について、救急事故等報告要領に基づいて算出したものを統計資料としてまとめたものです。
- 2 数字の単位未満は四捨五入しているため、総数と内訳が一致しない場合があります。
- 3 表中で使用した符号は下記のとおりです。
 - 「-」・・・該当数字又は集計値のないもの
 - 「※」・・・注釈
 - 「▲」・・・マイナス表示

目 次

1 救急出動件数及び搬送人員数	1 ページ
2 事故種別ごとの救急出動件数及び搬送人員数	2～3 ページ
3 年齢区分別の搬送人員数	4 ページ
4 傷病程度別の搬送人員数	5 ページ
5 救急出動における現場到着所要時間及び病院収容所要時間	6 ページ
6 熱中症による搬送人員数	7 ページ
別表 十勝管内消防署別救急出動件数と搬送人員	8 ページ

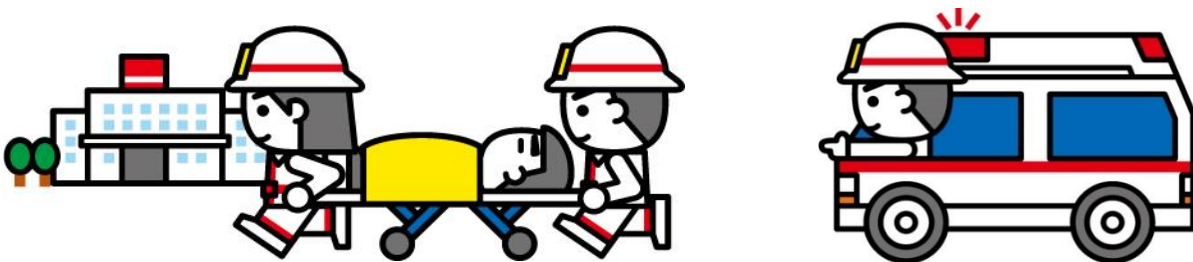
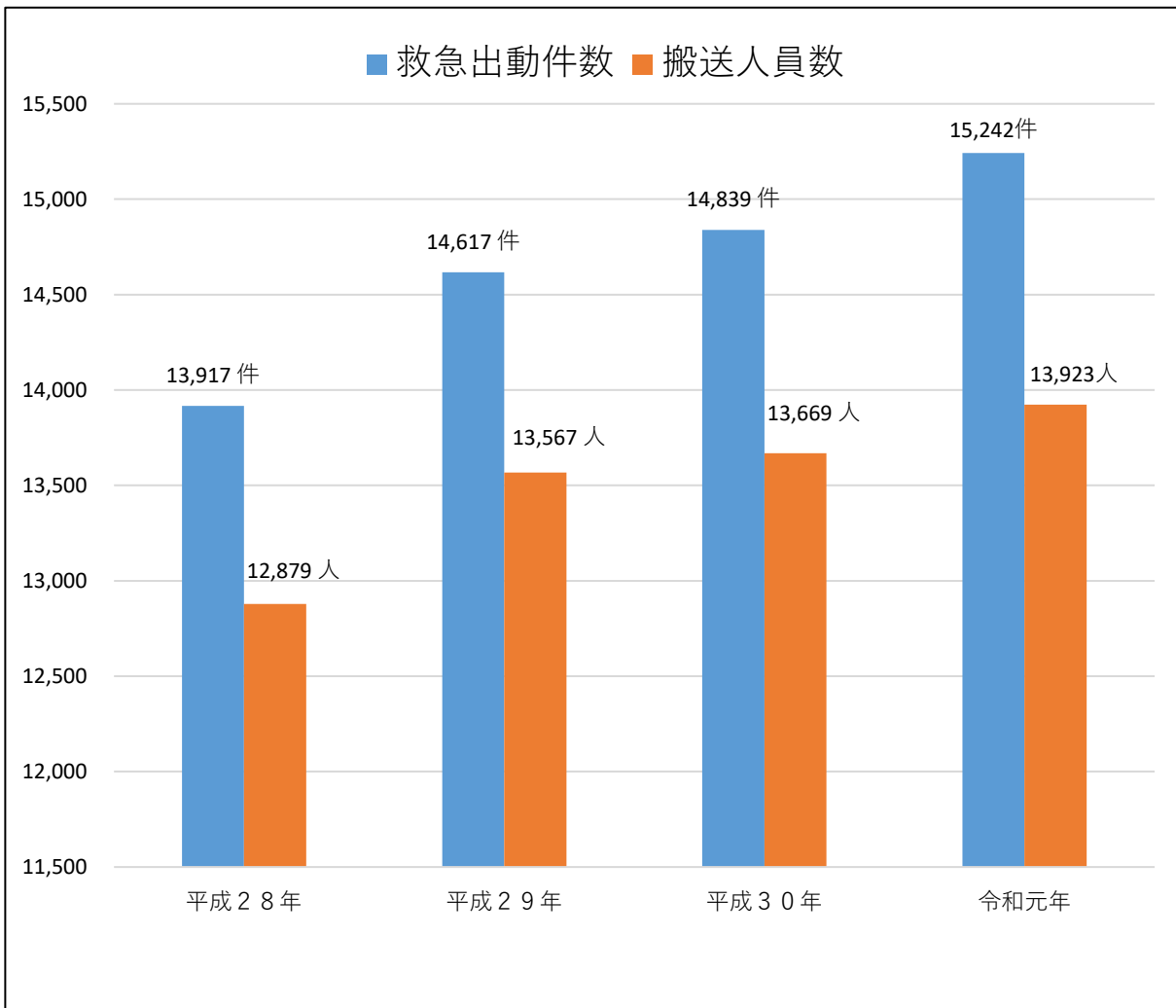
1 救急出動件数及び搬送人員数

令和元年中の救急出動件数は、15,242件（対前年比403件増、2.7%増）、搬送人員数は13,923人（対前年比254人増、1.9%増）で救急出動件数、搬送人員数ともに過去最多となりました。（図1）

救急車は34.5分に1回の割合で出動し、十勝管内の住民24.7人に1人が搬送されたこととなります。

※ 平成27年国勢調査人口（確定値）による管轄人口を基準に算出した値です。

図1 救急出動件数及び搬送人員数の推移



2 事故種別ごとの救急出動件数及び搬送人員数

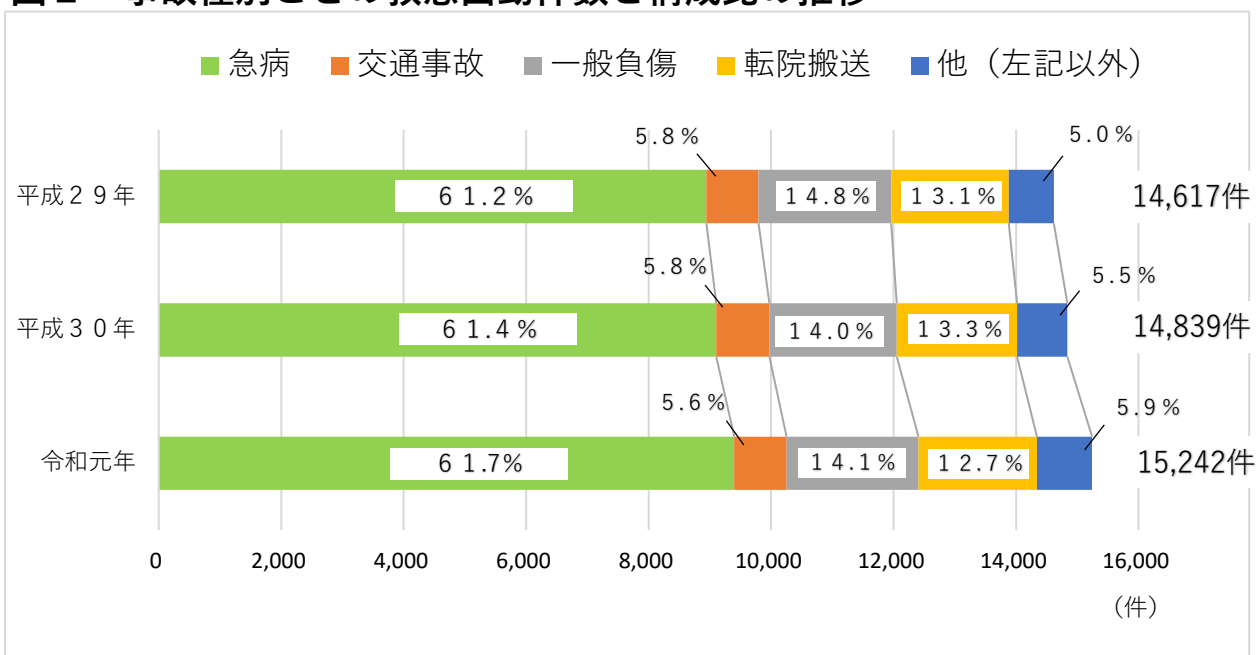
令和元年中の救急出動件数の内訳を事故種別ごとにみると、急病が9,399件（61.7%）、一般負傷が2,154件（14.1%）、交通事故854件（5.6%）などとなっています。（表1参照）

事故種別ごとの救急出動件数の推移をみると、火災、水難事故、労働災害、一般負傷、加害、自損行為及び急病などは増加している一方で、交通事故及び転院搬送は減少しています。（図2参照）

表1 事故種別ごとの救急出動件数対前年比

事故種別	令和元年中		平成30年中		対前年比		
	出動件数	構成比 (%)	出動件数	構成比 (%)	増減数	増減率 (%)	
火災	87	0.6	61	0.4	26	42.6	
自然災害	1	0.0	0	0.0	1	-	
水難	6	0.0	2	0.0	4	200.0	
交通事故	854	5.6	865	5.8	▲ 11	▲ 1.3	
労働災害	209	1.4	198	1.3	11	5.6	
運動競技	131	0.9	120	0.8	11	9.2	
一般負傷	2,154	14.1	2,078	14.0	76	3.7	
加害	39	0.3	32	0.2	7	21.9	
自損行為	165	1.1	146	1.0	19	13.0	
急病	9,399	61.7	9,107	61.4	292	3.2	
その他	転院搬送	1,935	12.7	1,967	13.3	▲ 32	▲ 1.6
	医師搬送	0	0.0	1	0.0	▲ 1	▲ 100.0
	資機材等搬送	0	0.0	0	0.0	0	-
	その他	262	1.7	262	1.8	0	0.0
合計	15,242	100.0	14,839	100.0	403	2.7	

図2 事故種別ごとの救急出動件数と構成比の推移



※ 端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

令和元年中の搬送人員数の内訳を事故種別ごとにみると、急病が8,574人（61.6%）、一般負傷が2,028人（14.6%）、転院搬送が1,935人（13.9%）などとなっています。（表2参照）

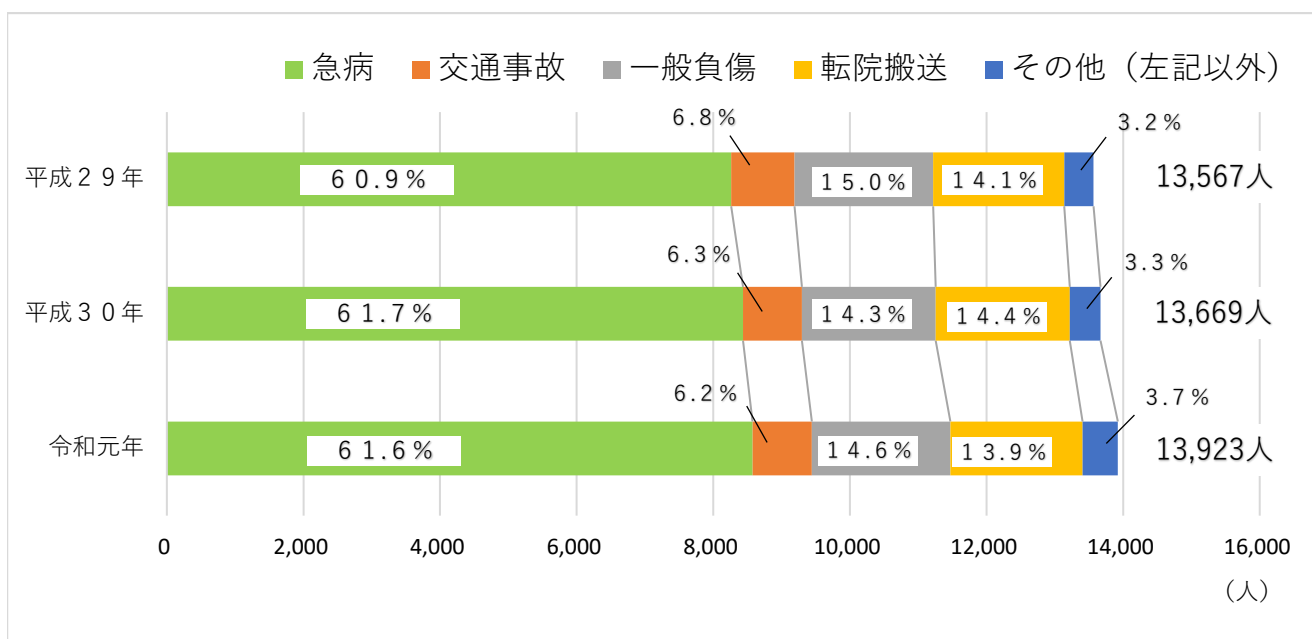
事故種別ごとの搬送人員数の推移をみると、転院搬送は減少しており、他の事故種別は増加しています。

（図3参照）

表2 事故種別ごとの搬送人員数対前年比

事故種別	令和元年中		平成30年中		対前年比		
	搬送人員数	構成比 (%)	搬送人員数	構成比 (%)	増減数	増減率 (%)	
火災	26	0.2	15	0.1	11	73.3	
自然災害	1	0.0	0	0.0	1	-	
水難	2	0.0	0	0.0	2	-	
交通事故	869	6.2	862	6.3	7	0.8	
労働災害	202	1.5	192	1.4	10	5.2	
運動競技	127	0.9	120	0.9	7	5.8	
一般負傷	2,028	14.6	1,960	14.3	68	3.5	
加害	32	0.2	23	0.2	9	39.1	
自損行為	113	0.8	94	0.7	19	20.2	
急病	8,574	61.6	8,434	61.7	140	1.7	
その他	転院搬送	1,935	13.9	1,962	14.4	▲27	▲1.4
	医師搬送	0	0.0	0	0.0	0	-
	資機材等搬送	0	0.0	0	0.0	0	-
	その他	14	0.1	7	0.1	7	100.0
合計	13,923	100.0	13,669	100.0	254	1.9	

図3 事故種別ごとの搬送人員数と構成比の推移



※ 端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

3 年齢区別の搬送人員数

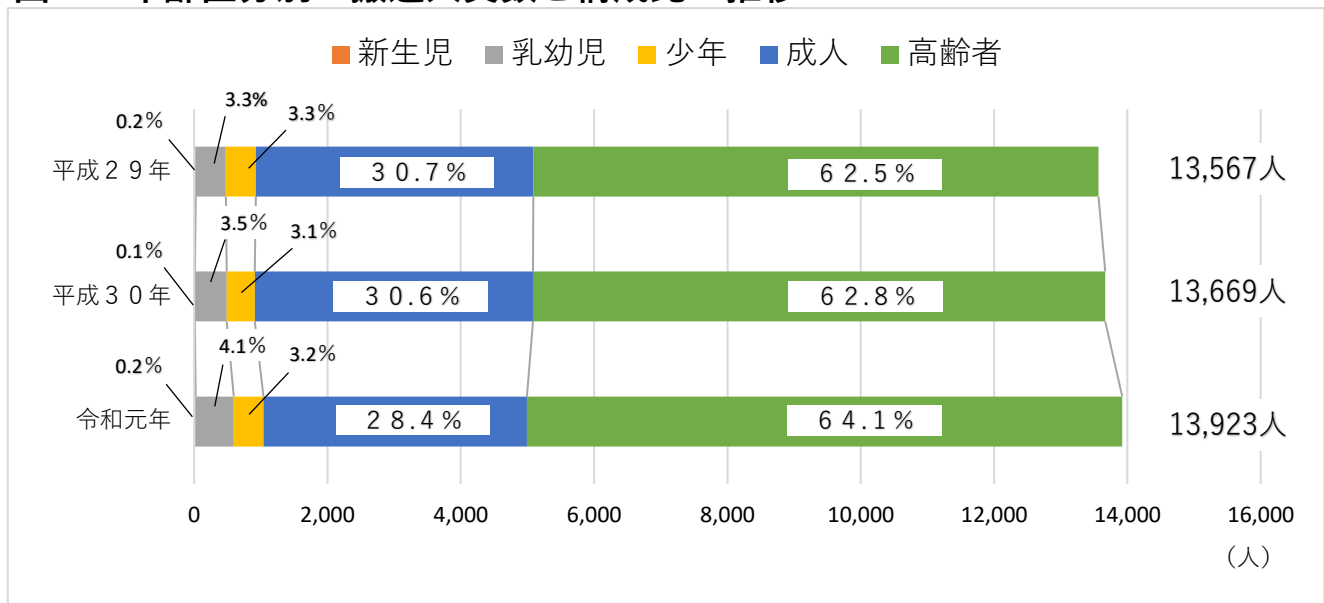
令和元年中の搬送人員数の内訳を年齢区別にみると、高齢者が8,931人（64.1%）、成人が3,952人（28.4%）、乳幼児が572人（4.1%）などとなっています。（表3参照）

年齢区別の搬送人員数の推移をみると、成人が減少しており、他の年齢区分は増加しています。（図4参照）

表3 年齢区別の搬送人員数対前年比

	令和元年中		平成30年中		対前年比	
	搬送人員数	構成比 (%)	搬送人員数	構成比 (%)	増減数	増減率 (%)
新生児	23	0.2	10	0.1	13	130.0
乳幼児	572	4.1	480	3.5	92	19.2
少年	445	3.2	419	3.1	26	6.2
成人	3,952	28.4	4,176	30.6	▲ 224	▲ 5.4
高齢者	8,931	64.1	8,584	62.8	347	4.0
合計	13,923	100.0	13,669	100.0	254	1.9

図4 年齢区別の搬送人員数と構成比の推移



※ 端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

※ 年齢区分の定義

- 新生児 : 生後28日未満
- 乳幼児 : 生後28日以上満7歳未満
- 少年 : 満7歳以上満18歳未満
- 成人 : 満18歳以上満65歳未満
- 高齢者 : 満65歳以上

4 傷病程度別の搬送人員数

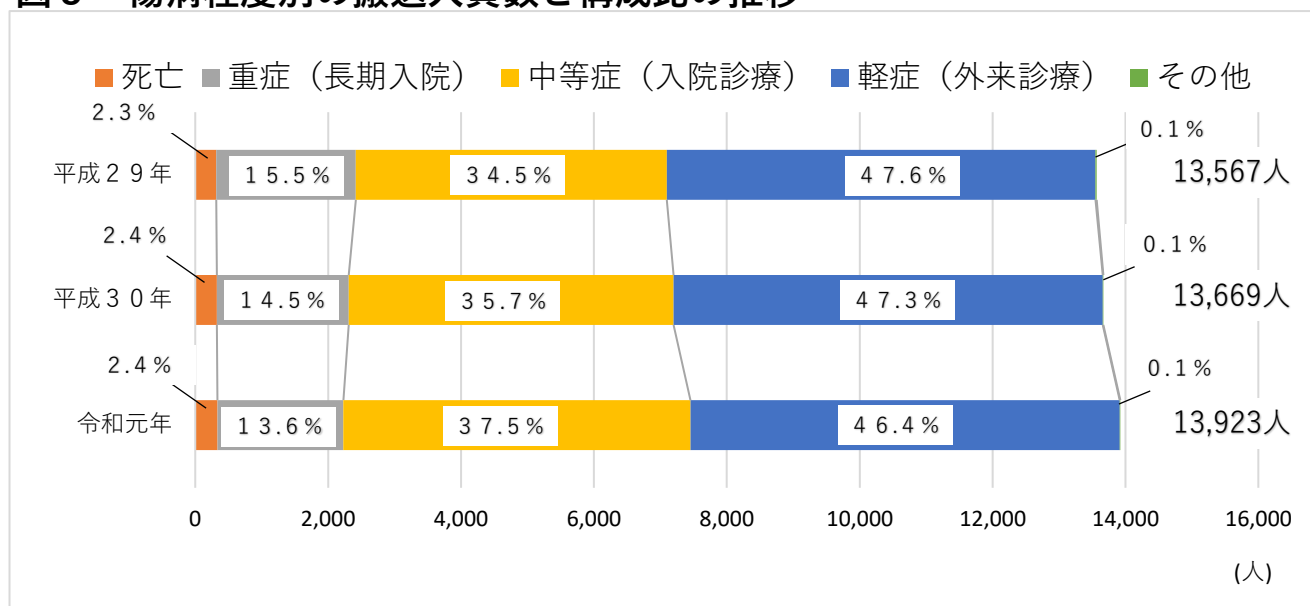
令和元年中の搬送人員数の内訳を傷病程度別にみると、軽症（外来診療）が6,460人（46.4%）、中等症（入院診療）が5,223人（37.5%）、重症（長期入院）が1,896人（13.6%）となっています。（表4参照）

傷病程度別の搬送人員数の推移をみると、総搬送人員数に占める軽症の傷病者の割合は、約5割で推移しています。（図5参照）

表4 傷病程度別の搬送人員数対前年比

	令和元年中		平成30年中		対前年比	
	搬送人員数	構成比 (%)	搬送人員数	構成比 (%)	増減数	増減率 (%)
死亡	334	2.4	327	2.4	7	2.1
重症（長期入院）	1,896	13.6	1,985	14.5	▲89	▲4.5
中等症（入院診療）	5,223	37.5	4,885	35.7	338	6.9
軽症（外来診療）	6,460	46.4	6,460	47.3	0	0.0
その他	10	0.1	12	0.1	▲2	▲16.7
合計	13,923	100.0	13,669	100.0	254	1.9

図5 傷病程度別の搬送人員数と構成比の推移



※ 端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

※ 傷病程度の定義

- 死亡：初診時において死亡が確認された方
- 重症（長期入院）：傷病程度が3週間以上の入院加療を必要とする方
- 中等症（入院診療）：傷病程度が重症または軽症以外の方
- 軽症（外来診療）：傷病程度が入院加療を必要としない方
- その他：医師の診断がないもの及び傷病程度が判明しないもの、もしくはその他の場所に搬送した方

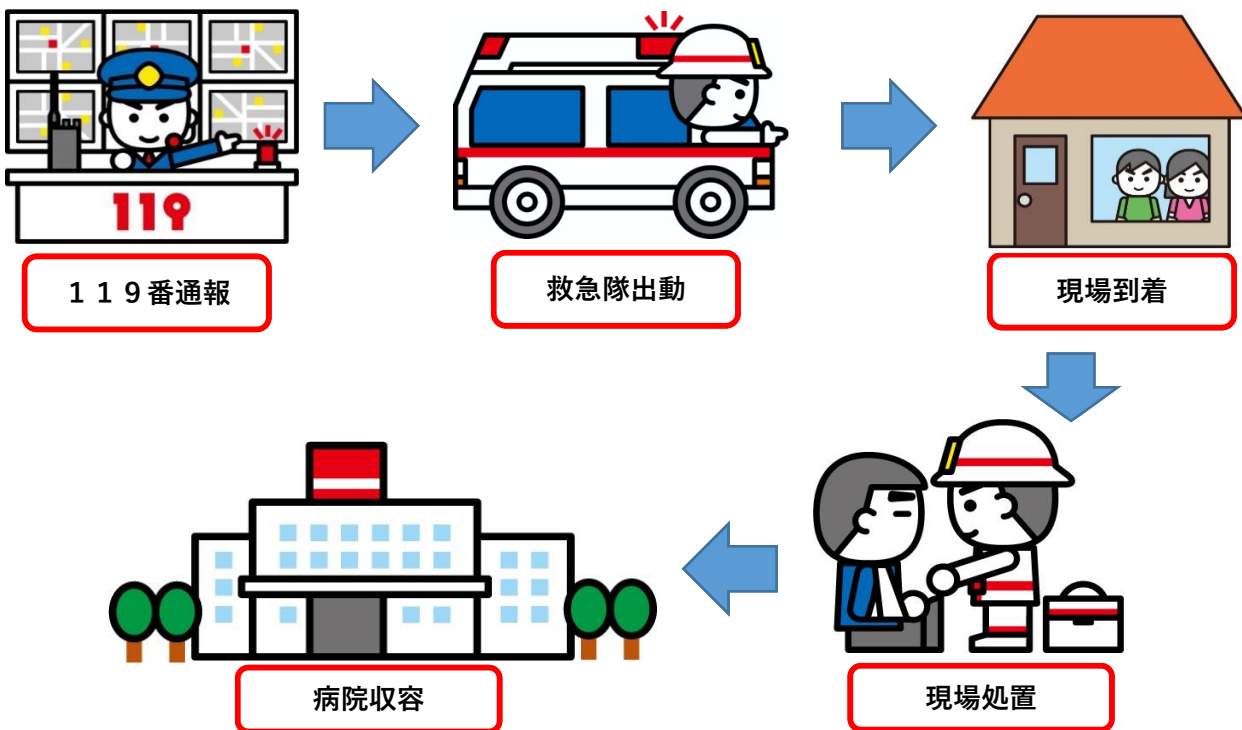
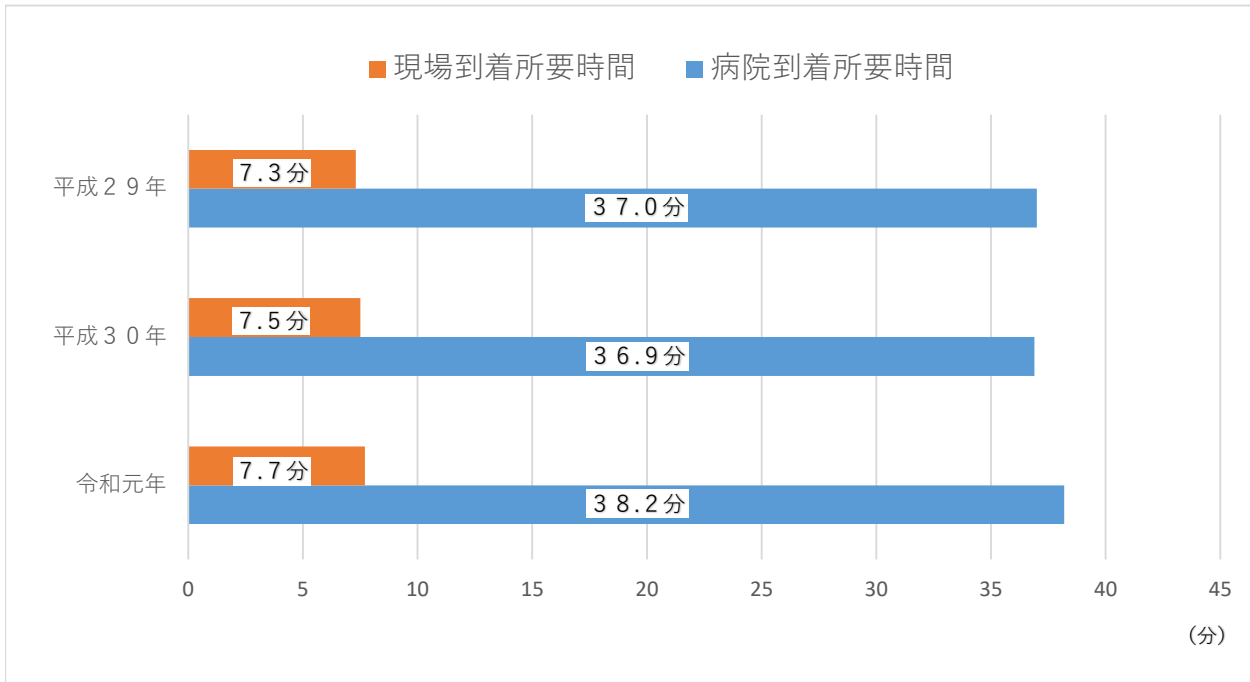
※ 傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、軽症の中には早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれています。

5 救急出動における現場到着所要時間及び病院収容所要時間

令和元年中の現場到着所要時間（119番通報を受けてから現場に到着するまでに要した時間）は、十勝平均で7.7分となっています。（図6）

また、病院収容所要時間（119番通報を受けてから病院に収容するまでに要した時間）は、十勝平均で38.2分となっています。（図6）

図6 現場到着所要時間及び病院収容所要時間の推移



6 熱中症による搬送人員数

令和元年5月～9月の熱中症による搬送人員のうち、年齢別にみると、高齢者が98人（57.0%）、成人が54人（31.4%）、小年が18人（10.5%）、乳幼児が2人（1.2%）となっています。

傷病程度別にみると、死亡が2人（1.2%）、重症（長期入院）が16人（9.3%）、中等症（入院診療）が43人（25%）、軽症（外来診療）が111人（64.5%）となっています。

男女別にみると、男性89人（51.7%）、女性83人（48.3%）となっています。

表5 熱中症による搬送状況

		令和元年中の搬送人員							平成30年中の搬送人員						
		5月	6月	7月	8月	9月	合計	構成比 (%)	5月	6月	7月	8月	9月	合計	構成比 (%)
年齢区分	新生児	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.0
	乳幼児	0	0	1	1	0	2	1.2	0	0	0	0	0	0	0.0
	少年	3	3	5	6	1	18	10.5	2	2	8	1	0	13	11.8
	成人	10	0	17	23	4	54	31.4	2	4	11	8	4	29	26.4
	高齢者	19	6	21	44	8	98	57.0	6	10	31	16	5	68	61.8
傷病程度	死亡	0	0	0	2	0	2	1.2	0	0	0	0	0	0	0.0
	重症	2	0	5	8	1	16	9.3	1	1	3	0	0	5	4.5
	中等症	12	3	7	20	1	43	25.0	1	4	8	6	3	22	20.0
	軽症	18	6	32	44	11	111	64.5	8	11	38	19	6	82	74.5
	その他	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	1	0	0	1	0.9
性別	男性	18	3	22	37	9	89	51.7	8	9	29	13	5	64	58.2
	女性	14	6	22	37	4	83	48.3	2	7	21	12	4	46	41.8
搬送人員		32	9	44	74	13	172	100.0	10	16	50	25	9	110	100.0

※ 端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

※ 年齢区分及び傷病程度は表3及び表4の注意書き参照



別表 十勝管内消防署別救急出動件数と搬送人員

	救急出動件数				搬送人員			
	令和元年	平成30年	増減	増減率	令和元年	平成30年	増減	増減率
帯広消防署	7,801	7,630	171	2.2%	6,805	6,766	39	0.6%
音更消防署	1,597	1,517	80	5.3%	1,495	1,442	53	3.7%
士幌消防署	298	286	12	4.2%	283	276	7	2.5%
上士幌消防署	259	265	▲ 6	▲ 2.3%	248	259	▲ 11	▲ 4.2%
鹿追消防署	217	179	38	21.2%	204	169	35	20.7%
新得消防署	253	239	14	5.9%	249	230	19	8.3%
清水消防署	361	332	29	8.7%	342	314	28	8.9%
芽室消防署	722	691	31	4.5%	737	667	70	10.5%
中札内消防署	163	189	▲ 26	▲ 13.8%	153	182	▲ 29	▲ 15.9%
更別消防署	125	133	▲ 8	▲ 6.0%	126	135	▲ 9	▲ 6.7%
大樹消防署	258	247	11	4.5%	244	243	1	0.4%
広尾消防署	344	299	45	15.1%	317	285	32	11.2%
幕別消防署	1,232	1,195	37	3.1%	1,177	1,136	41	3.6%
池田消防署	353	370	▲ 17	▲ 4.6%	335	363	▲ 28	▲ 7.7%
豊頃消防署	137	149	▲ 12	▲ 8.1%	128	131	▲ 3	▲ 2.3%
本別消防署	416	425	▲ 9	▲ 2.1%	403	412	▲ 9	▲ 2.2%
足寄消防署	402	384	18	4.7%	389	370	19	5.1%
陸別消防署	129	128	1	0.8%	125	121	4	3.3%
浦幌消防署	175	181	▲ 6	▲ 3.3%	163	168	▲ 5	▲ 3.0%
十勝総数	15,242	14,839	403	2.7%	13,923	13,669	254	1.9%

作成担当

とかち広域消防局救急企画課

令和2年12月作成